

学校改革！教職員の時間創造プロジェクト

ニュースレター

～働きやすい環境づくりのために～

2025 年2月



Vo.5

キンメダイ

新しい部活動のあり方（拠点校部活動の取組）

熊本市では、令和9年度実施の新しい部活動の開始に向け、取組を進めています。江南中学校と江原中学校では、拠点校部活動の実施により、生徒たちは自校にはない種目の活動でもペアの学校に部があれば参加することができます。

令和6年度の活動状況は、右の表のとおりです。例えば、江原中学校にはソフトテニス部がありませんが、ソフトテニスをしたい生徒は江南中学校での活動に参加しています。同様に、江南中学校にはサッカー部がありませんので、サッカーをしたい生徒は江原中学校での活動に参加しています。また、野球部と女子バスケットボール部、女子バレーボール部については、両校を行き来しながら合同で活動しています。



江南中学校		江原中学校
野球	↔	野球
男子ソフトテニス	↔	(男子ソフトテニス)
女子ソフトテニス	↔	(女子ソフトテニス)
(サッカー)	→	サッカー
(男子陸上)	→	男子陸上
(女子陸上)	→	女子陸上
男子バスケ	↔	(男子バスケ)
女子バスケ	↔	女子バスケ
女子バレー	↔	女子バレー
(男子バドミントン)	→	男子バドミントン
(女子バドミントン)	→	女子バドミントン
(男子卓球)	→	男子卓球
(女子卓球)	→	女子卓球
吹奏楽		吹奏楽
美術		美術

拠点校部活動は、両校の校長先生の連携・同意のもと実施し、江南中学校と江原中学校の校長先生も、常時情報交換を行いながら活動を進めています。

江南中学校の星田校長先生は、拠点校部活動のメリットを次のように話されています。

《こどもたちにとって》

- ・選択の幅が広がる。
- ・同年代のこどもとの交流の幅が広がる。(特に、1小1中の本校のこどもたちにとっては他校の生徒とのふれ合いは貴重である。)
- ・学校生活上の悩みを相談するなど、自分と関わりの深い先生が増える。

《教職員にとって》

- ・より多くの人数で指導を行うことで、教職員1人にかかる負担が軽減される。
- ・時間的にも心理的にも余裕が生まれる。



江南中学校
星田 正治 校長

活動中の生徒と顧問の先生方へインタビュー



私自身、初任者でバレーボールの経験もないので、いろいろな面で不安が大きかったところです。そんな中、部活動の指導においては、複数人で交代しながら行っていますので、負担は少ないです。

また、女子バレー部は両校とも部員数が少なく、単独では試合形式の練習はできない状況ですので、こどもたちにとってもありがたい環境です。

バレーボール部顧問 江原中 櫻井 菜々美 教諭

今までよりも、放課後早く準備して練習に行こうという気になります。上部君はとても頼もしい存在です。

江南中野球部キャプテン 池田 大翔 さん



部員が増えて、質のいい練習ができていような気がします。多くの部員を一人ですとめるのは大変なので、池田君がいて助かります。

江原中野球部キャプテン 上部 一心 さん



野球部は、4人体制で、スタッフが充実しています。私も子育て中であり、休日の練習の都合がつかない場合など、他の先生方をお願いすることもあり、助かっています。

生徒たちにとっても、一緒に活動する仲間が増え、切磋琢磨しているようです。

野球部顧問

江南中 馬場 征行 教諭

